

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
応用ゼミナール2 (A)	内田 亨			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
経営学の学問修得と実践的人材育成							
内容							
<p>本ゼミナールでは、グループワークを通して、経営学の学問の修得および社会人として通じることとなるような実践的な人材を育成します。そのために次のことを目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション力の醸成 2. 自分らしさの企画の創造と運営 3. 実践することによって地域に貢献できたという実感 <p>上記の目標のために、ビジネスゲームや実際のプロジェクトを実施します。</p> <p>プロジェクトの事例としては次のようなものがあります。実施したプロジェクト報告書や写真は研究室に蓄積されていますので難しいことはありません。下記のうちひとつもしくは新たなプロジェクトを考えています（先方あってのものなので未定です）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 笹山じょうもん市（十日町市中条地区での祭りの企画・運営） http://npo-sasayama.com/?m=201806 2. すいか祭り（メイワサンピアのブースにて玉こんにゃくの仕入れ・販売・実績レポート作成） 3. 地（知）の拠点大学における地方創生推進事業（「サブカルチャーを通じた新潟の魅力発信」プレゼン） https://www.niigata-coc.jp/news/kokusaikoryu/708/ 4. 笹山縄文の世界展（写真展の企画・運営・アンケート調査） http://www.nuis.ac.jp/pub/p01_1446109328341.html?c=030 5. 地域生活支援施設桜井の里あかつかの家での夏祭り（ゲームコーナーでの運営およびインタビュー調査） 6. 大学生の力を活かした集落活性化（地域活性化のための現地調査、アイデア創出、提案書作成） http://www.pref.niigata.lg.jp/chiikiseisaku/1356838615750.html <p>【毎回予習・復習に合わせて4時間】</p>							
使用予定テキスト							
なし							
ゼミの進め方							
グループワーク、フィールドワーク、外部交流をします。							
成績評価基準							
①ディスカッションへの参加度（40%）、②企画書の出来栄（20%）、③企画の実践および対象先からの評価（40%）							
ゼミ選択上のアドバイス							
<ol style="list-style-type: none"> (1) 「自分はどこに行っても通用する人間になるのだ」という向上心と信念を持った学生を歓迎します。 (2) ゼミのメンバーリストを作り、その中で出欠や情報交換をしていきます。 (3) 井の中の蛙にならないように、学外の人・組織と交流しますので、積極的に参加してください。 (4) 報告書作成が必須なので、文章力をつけるよう努力してください。 (5) ゼミ生には、セルフ・マネジメントと、積極的にディスカッションに参画することが求められます。 (6) 本ゼミナールを通して、社会に通用するスキル・能力・思考力を身につけるという意識を持ってください。 							
その他							
<p>本ゼミナールを受講すれば、問題発見能力の醸成と自律的、計画的な企画書作成を行うことができます。また、洞察力・考察力を育成することにもなります。</p> <p>土曜日に学外へフィールドワーク、外部交流をすることもあるので承知しておいてください。</p>							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
応用ゼミナール2 (B)	小宮山 智志			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
アイデアを生み出す方法を身に着けよう！							
内容							
<p>大学は“自分の頭”と“他人の頭”を利用して、新しく正しく社会的意義のある知識を創造する（＝研究する）ところです。高校までは自分の頭で考えることを身に着けてきました。もちろん自分の頭で考えることは大切ですが、仕事となると自分だけで目的の95%を達成することよりも、他人と協力して100%、いや今まで以上の成果を出すことを求められるようになります。</p> <p>この演習では集団で思考することを学びます（“ブレインストーミング”と呼びます）。新しい知識を作り出すためにはアイデアが必要です。各自の頭の中にある知識をすべて出し尽くし、さらにそれらを結合させ、アイデアを作り出すことを徹底して学んでいきます。</p> <p>そして私たちが考えたアイデアを、実際に地域で試行してみましょう。いままで先輩たちが試行してきた例の一部を紹介します。</p>							
<ul style="list-style-type: none"> ・先進的な地域を SNS で発信：全国に先駆け、地域で農業法人化、農家民泊、6次化などを始めていた地域を調査し、活動の発信・販売促進のお手伝いをしました。また地域の小学生とも協力して、継続して発信していく仕組みも考えました。 ・内野町おこしのための「1日限定の喫茶店」を開店：地域の食材を使い内野町をアピールすること、そして内野町に若者を呼び込むことを目指しました。 ・地酒試飲会：地域の地酒を試飲してもらい、評価をもらい、そのような人びとが、どの種類のお酒を好むか調査しました。 ・地域の食材を使った新商品の開発：地域の祭りで、自分たちがアレンジした、地域の伝統食を販売しました。 ・パブリックビューイングの開催：2014年ワールドカップのパブリックビューイングを新潟国際情報大学で開催しました。地域の方にも大勢ご参加いただきました。 ・みずき野飲食店マップ作成：みずき野の飲食店にご協力頂き、飲食店マップを作成しました。 ・ペーパークラフト作成：オリジナルなペーパークラフトを作成し、地域の祭りで販売しました。どのようなデザインのものが好まれるか、調査しました。 <p>活動内容はグループワークで相談しながら決定します。また活動内容を口頭発表する準備をします。発表練習をととして、プレゼンテーションを学びます。発表内容をレポートにまとめることで、レポートの書き方などを学びます。また全体をととして“研究する”とは何かを学びます。</p> <p>【事前・事後学習】調査・実験などの課題（15時間相当）を行なってもらいます。</p>							
使用予定テキスト							
<ul style="list-style-type: none"> ・世界思想社編集部編、2018『大学生 学びのハンドブック』世界思想社。 ・映像資料 NHK、2011『スタンフォード白熱教室』など（適宜配布）。 							
ゼミの進め方							
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、数名でグループワークを行います。 ・実際に地域での活動を通して、アイデアを実践します。 							
成績評価基準							
<p>各回のグループワークでの活躍（50%）と、レポートで評価します（50%）。グループワークでアイデアを出すことはとても重要です。それと同時に、各自でアイデアを文章にまとめる力も養います。どちらもイーブン（50%ずつ）で評価します。グループワークを通して、フィードバックします。</p>							
ゼミ選択上のアドバイス							
<p>これから社会は、変化していきます。そして変化に適応した新しい知識を生み出し続けることを求められます。大変なようですが、方法を身に着ければ、様々な人々がそれぞれの視点を生かして活躍できる社会でもあります。周りの人の力を引き出し、そして自分自身の能力を開花させたい人は、ぜひご検討ください。</p>							
その他							
<ul style="list-style-type: none"> ・集団で活動します。ゼミにおいて無断欠席は認めません。全員に迷惑が及びます。可及的速やかに連絡してください。 ・虚偽の申告をした方は、単位の取得はできません。 							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
応用ゼミナール2 (C)	佐々木 宏之			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
心理学研究を進めるための基礎スキルの習得							
内容							
心理学研究を進めるための基礎スキルとして、統計処理能力と英語論文の読解力があげられる。実験・調査で得られたデータから仮説を検証するには統計学的な根拠が必要になる。また、自分の研究分野の研究動向を把握するためには国際専門誌の英語論文を読むことが欠かせない。そこで、これら研究活動に必要な基礎スキルを養うため、前半でExcelを使った統計処理、後半で英語論文抄読を行う。							
①Excelによる統計解析入門							
t検定・・・2つの平均の比較							
カイ二乗検定・・・クロス集計表の独立性検定							
相関分析・・・変数間の関係性の検定							
一元配置分散分析・・・3つ以上の平均の比較							
二元配置分散分析・・・2要因の主効果と交互作用の検定							
②英語論文抄読							
社会心理学、認知心理学に関する英語論文							
ディプロマポリシーとの関連：情報技術の利活用方法を修得し、仕事や生活に活用できること。							
【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】							
使用予定テキスト							
「Excelで今すぐはじめる心理統計」講談社							
ゼミの進め方							
①Excelによる統計解析入門							
必携パソコンを用いて各自分析し、分析結果をレポート提出する。							
②英語論文抄読							
1～3文ずつ交代で英文和訳を発表する。段落ごとに内容を確認する。頻出専門用語を確認する。							
成績評価基準							
分析結果レポート、論文抄読に対する取り組み							
ゼミ選択上のアドバイス							
1年次前期科目「統計学」を復習すること。							
英語論文抄読は配布資料の予習(和訳)が必須である。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
応用ゼミナール2 (D)	佐々木 桐子			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
「データ分析力」と「コミュニケーション力」の育成							
内容							
このゼミナールでは、前半は、需要予測や在庫管理に関する様々な手法を適時的確に使い、得られた結果を正しく解釈し、適切に表現できる能力を育成します。後半は、グループワークでの作業を通して、協調して作業したり、グループをまとめることができる能力を養います。							
【授業内容】							
・ 需要予測 直線回帰、指数曲線、移動平均、指数平滑など							
・ 在庫管理 経済発注量、定量発注法、定期発注法など							
・ グループワークによる総合演習 習得した需要予測および在庫管理の手法を用い、グループで演習課題に取り組み、成果を発表します。							
【関連するディプロマポリシー】							
・ 健全な社会生活を営むための常識持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること。							
・ 情報や情報システムの利活用方法を修得し、仕事や生活に活用できること。							
【準備学習】							
・ 毎回、予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出してもらいます。							
使用予定テキスト							
毎回の授業で資料を提示します（購入の必要はありません）。							
ゼミの進め方							
前半は個別課題、後半はグループ課題になります。 授業では、Excel を使用します。基本的な Excel の使い方（表やグラフの作成、数式等）から丁寧に指導しますので、苦手意識を持った学生でも、じっくりと理解を深めることができます。							
成績評価基準							
・ 毎回の授業への取組評価：20%							
・ 成果物（課題や発表）の評価：80%（需要予測 30%、在庫管理 30%、グループワーク 20%）							
<フィードバック>							
提出された課題は、採点后、返却・解説を行います。							
発表後は、それぞれの発表に関する講評を行います。							
ゼミ選択上のアドバイス							
今は苦手意識があっても構いません。 「データ分析力」、「コミュニケーション力」を養いたい、と思っている学生を歓迎します。 また、孤立することなく、お互いが学びあい、理解を深めあえる環境を大事にしていきます。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
応用ゼミナール2 (E)	白井 健二			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
企業価値の定量評価手法について							
内容							
DCF 法に必要な算出データを基に財務データ項目すべてについて理解し、毎ゼミナール作業についてレポートを提出する。これにより、DCF 法による企業価値評価の理解を深める事が出来る。各自、国内上場企業を選択し、DCF 法に必要なデータを過去5年間の決算データから抽出・加工する作業を実施する。最終結果として理論株価を算出する。 [事前・事後学習について] 毎回配布資料の予習・復習に4時間勉強しておくこと。ゼミの時間に資料を理解しながら進めると所定の範囲の修得ができない。							
使用予定テキスト							
ゼミ資料は1回目に配布します。							
ゼミの進め方							
ゼミの時間では、企業の決算報告書に提示されている事項について調査し理解する。							
成績評価基準							
ゼミナール実施時の作業内容レポート (50%)。ゼミナール出席 (50%)。							
ゼミ選択上のアドバイス							
企業において、本来事業での収益がどのように定量的に形成されているか？を理解する。企業価値評価に興味ある方は応募してください。							
その他							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
授業科目	担当教員			【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
応用ゼミナール2 (F)	土屋 翔			【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
		【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×		
ゼミテーマ・タイトル							
飲食における経営企画～自分が経営者だったとして～							
内容							
講義は大きく2つの構成（45分と45分）で行う。 前半は、時事問題に関して議論する。 取り上げる予定の時事問題は、タイムリーな内容、経営、社会問題等多様である。 取り上げた内容に関して、全員に意見を求め、互いに議論してもらう。 後半は、グループを作り、飲食店出店に向けた一からの企画を練ってもらう。 1 どのような形態か 2 出店場所（新潟県内） 3 メニュー 4 値段 5 マーケティング 6 広告 7 ユニフォーム など、考える必要がある要素がある。自分たちで考え実現性のある仮想飲食店を作って欲しい。 情報社会で活躍するために、多様な知識を学び取ってほしい。 中間発表、最終発表を行い、相互評価を行う。							
使用予定テキスト							
特になし。							
ゼミの進め方							
時事問題に関して前もって、資料を配布する。しっかりと目を通し、自身の考えを全員の前で述べることを求める。 グループ活動では、文献調査、聞き取り調査等、多様な手法を使って、仮想飲食店を出店してもらう。							
成績評価基準							
成果物（50％）、授業貢献度（50％）							
ゼミ選択上のアドバイス							
薄々気づいている学生もいると思いますが、少し厳しいゼミナールだと思います。 自身の考えを多く求めるので、受動的な学生はオススメできません。 多くの視点を得たい、経営学を知りたいという学生にオススメです。							
その他							
講義時間外でのグループワークも場合によってはあります。 予習復習に4時間をしっかりと確保してください。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
応用ゼミナール2 (G)	藤瀬 武彦			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
少子高齢社会において運動・スポーツがどう貢献できるかを考える							
内容							
<p>日本は近い将来に約3人に1人が高齢者という極端な少子高齢社会を迎え（現在は約4人に1人）、医療費や介護費などが高騰して国民の負担が非常に重くなることが予想される（2017年の医療費は約42兆円）。従って、各々が健康体力づくり（介護予防を含む）に関する知識をもつことが必要であり、またその実践が重要であることは言うまでもない。この授業では健康体力づくりに関する身体機能、食事、運動などについて学ぶとともに体力測定などを実施し、また運動・スポーツ施設やその運営・経営についても考え、今日の高齢社会や情報社会で活躍するための知識を身に付ける。その主な内容は以下に示した通りである。</p> <p>①ガイダンス・・・超高齢社会における医療と介護の実態など ②体力診断と運動処方とは・・・基礎体力、有酸素性及び無酸素性運動 ③肥満度と全身持久力・・・肥満度の評価法、全身持久力の評価 ④エアロビクトレーニングの理論と実践・・・有酸素性運動の強度と時間など ⑤ウエイトトレーニングの三大基本種目・・・無酸素性運動の強度とセット数など ⑥体力・身体づくりのための食事法・・・三大栄養素とPFCバランスなど ⑦学校におけるフィットネス教育と施設・・・フィットネス教育と学校の運動施設について ⑧総合型地域スポーツクラブと施設・・・公共の運動施設と運営について ⑨民間のフィットネスクラブの施設と経営・・・民間の運動施設と経営について ⑩プロスポーツの実態と経営・・・プロスポーツの選手強化と観客動員について ⑪オリンピックの歴史・・・主な出来事と日本の関わりについて ⑫オリンピックに関する諸問題・・・政治利用（ボイコット）やドーピングなど ⑬e-sportsの実態と諸問題・・・e-sportsとその経済効果並びに五輪種目になり得るか ⑭スポーツビジネスの可能性・・・健康体力づくりや介護予防を目的としたビジネスは可能か ⑮まとめ・・・より良い社会をつくるために運動スポーツをどのように運営していくか</p> <p>【予・復習と必要時間】 各回の授業を受けるために回毎に示したキーワードに関する予習復習を2時間必要とする。</p>							
使用予定テキスト							
必要に応じて資料を配布（PowerPointにて提示）する。							
ゼミの進め方							
講義形式、実習形式、あるいは施設見学など。							
成績評価基準							
出席（演習）60点、課題（レポートなど）40点							
ゼミ選択上のアドバイス							
スポーツ・フィットネス業界に興味のある学生だったらその基礎が学べる。							
その他							
授業内容によっては運動着と室内用運動靴が必要になる。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
応用ゼミナール2 (H)	藤田 晴啓			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
1) ホログラムによる MR（複合現実）自作体験とビジネス展開 2) 電子査読会議システムによる、会議運営出版業務の学習 3) Excel を使ったデータ解析によるマーケティング予測							
内容							
<p>今や AI ロボットが世界中のニュースを解析することにより外国為替マーケット動向を予測し日夜取引を自動で行う。担当教員の友人実業家は、この外国為替取引ロボットを使い 100 万ドルを投資して着実に利益をあげている。近未来のビジネスは AI や新たなテクノロジーとどのように関わっていくのであろうか？Microsoft 社は MR (Mixed Reality=複合現実) ヘッドセットを利用して現実の物品近くに関連品買い物ボタンを置ける特許を申請した。この複合現実 MR は実際われわれがいる部屋とかの空間に商品等の 3D ホログラムを投影して、これまで 2D では再現できなかった新たなビジネス開発が可能となる技術である。</p> <p>MR 体験では、多方向写真撮影により 3D アプリにより 3D オブジェクトを簡単に作成でき、藤田晴啓研究室にある 2 台の Microsoft HoloLens を使ってホログラムを投影する一連のホログラム作業を体験し、履修生はビジネス展開のアイデアをグループで討議し提言する。通常のホログラムは HoloLens 等のデバイスを装着しなければ体験できないが、HoloLens から見ることでできる現実＋虚像を WiFi でパソコンに送信し、その画像をリアルタイムでプロジェクターにて投影でき、多くのヒトが体験できるホロジェクションが可能となる。ホロジェクション再帰現象（2 枚の鏡に像が連続して投影されるように、ホログラムが連続して映しだされる現象）も含めデモンストレーションを行う。</p> <p>近年、電子査読システムを使った会議運営出版業務が新たなサービスとして注目されている。企画から会議に至るまでの業務をどのようなスケジュールで実行するのか、クライアントに企画を提案し、電子出版を含めた会議コンテンツを出版できるのかを学習してみる。会議運営では Web サイト公開、論文等著作の査読、さらには電子出版システムの運用が連携させる一連の業務を学習する。</p> <p>最後の体験学習として、スーパーマーケットの来客数予測を曜日、セールス日の有無、休日の有無等、数値ではない変数で行う統計解析（数量化理論Ⅰ類）を、各自の Excel を使って体験してみる。また、実際に 2017 年に実施したホログラムに関する実験のデータ解析も行なっている。</p> <p>以下 15 回演習の内容です（あくまで指針であり演習の進み方により調節します）</p> 1 まずはホログラムによるバーチャルミュージアムを体験してみよう 2017 年にオープンキャンパスおよび国立博物館で開催したコンテンツの閲覧（予習復習に 4 時間） 2 ホログラムの原理、なぜ 3D 虚像が再現できるのか、ホロレンズを詳しく解剖してみよう（予習復習に 4 時間） 3 お気に入りフィギュアの 3D オブジェクトを作ってみようその 1（多方向写真撮影）（予習復習に 4 時間） 4 ReCap アプリによる 3D オブジェクトの作成その 2、とても簡単！（予習復習に 4 時間） 5 Microsoft HoloLens によるホログラム表示、いよいよ自作ホログラムが観れます（予習復習に 4 時間） 6 グループでホログラムを活用したビジネス展開を議論、提言を行います（予習復習に 4 時間） 7 ホロジェクション（HoloLens 投影をプロジェクター介し投影）の実演とグループごとのビジネスプレゼンテーション（予習復習に 4 時間） 8 コンベンションマネジメント（会議運営）と電子査読・出版 次世代のサービス（予習復習に 4 時間） 9 実際に査読システムをみて、査読をどのようにすすめるのか理解しよう（予習復習に 4 時間） 10 電子出版システムと出版ビジネス、今や印刷物は必要とされない（予習復習に 4 時間） 11 会議査読・電子出版システムとリンクする Web サイトおよびグループ提言プレゼン（予習復習に 4 時間） 12 説明要因が数値ではなく、曜日、月、その他の定性変数の場合、スーパー来客数や、ビール出荷量等の数値は予測可能か？ダミー変数データの作成（予習復習に 4 時間） 13 Excel による説明変数を減らす繰り返し回帰分析の手順をマスターしよう 14 ビール出荷量の予測（予習復習に 4 時間） 15 レストラン出店のためのマーケティング手法、顧客の複数の選好性項目（例えば禁煙や健康素材のチョイス）を比較できるコンジョイント分析をマスターしよう（予習復習に 4 時間） 16 ヒトの異なる行動項目の関連性を見出す χ^2 検定、ホログラムによる被験者試験データから新しい技術への関心とバーチャルミュージアムへの関心の関連性を検定する（予習復習に 4 時間）							
使用予定テキスト							
テキストは使用せず資料等配布する							
ゼミの進め方							
講義およびノート PC を使用した演習形式 ホログラム作成およびビジネス提言はグループワーク ホログラム作成は藤田晴研究室の TA が皆さんの作業を補助します AutoCAD 社 ReCap を含め作業に必要なアプリケーションは事前にダウンロードを指示します 毎回のゼミナールには予習復習合計 4 時間必要です							
成績評価基準							
個人あるいはグループレポート提出により評価 ホロレンズコンテンツは他グループが評価							
ゼミ選択上のアドバイス							
近未来の IT テクノロジーは、情報システム学科だけのものではなく、経営学科だからこそ経験する必要があります 3 つのテクノロジーに焦点を絞り、演習形式でビジネスへの展開を学びます							
その他							
授業演習中は PC によるノート取りおよび指定 URL 参照、指定アプリケーションのみ許可します。その他関係ないサイト閲覧、スマホ利用は厳禁。これに違反した場合は教室からの退去を勧告します。私語もまわりに迷惑をかけるので謹んでください。2 度目注意した場合は教室からの退去を勧告します。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
応用ゼミナール2 (I)	藤田 美幸			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
経営学の学問修得とコミュニケーション力の育成ーフィールドワークを通してー							
内容							
<p>本ゼミナールでは、グループワークを通して、経営学の学問の修得およびコミュニケーション力を育成することを目的とします。そのため、商品やサービスの企画をおこないます。</p> <p>＜企画力を身につけるため、取り組む課題＞</p> <p>商品（サービス）は、顧客の「感動」を生み出します。そのため顧客志向が大切になります。</p> <p>(1) 顧客志向を探るには、思い込みでなく実際に生じているデータを集め、提示します（エビデンス）。</p> <p>二次データ（統計資料や既存の文献など、他人が集めた結果として既にこの世に存在するデータ）はもちろんのこと、出来る限り一次データ（自分で集めたデータ）を集めます。</p> <p>つまり、マーケティング・リサーチの知識が必要となり、講義中にレクチャーしていきます。</p> <p>(2) アイデアを発想し選択します。</p> <p>(3) (2) で選択されたアイデアについて構成する要素の最適な組み合わせを探ります。</p> <p>(4) 成果物として、発表会等でパワーポイントを使用したプレゼンテーションを行い、研究報告書を提出します。</p> <p>* 産官学連携プロジェクトを実施する場合があります。</p> <p>* 学外のビジネスプランコンテスト等に成果物を発表する場合があります。</p> <p>(上記のような場合は、学外のスケジュールに合わせるため講義開催日が変更になる場合があります。)</p> <p>* この科目は、「健全な社会生活を営むための常識を持ち、他社と協力して問題解決にあたること」および「情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できる」ための科目のひとつになります。</p> <p>また、毎回の予習・復習に合わせて 4 時間相当の課題を提示し、その成果を提出してもらいます。</p> <p>(前期・後期ともに同じ内容ですが、取り組む課題が異なる場合があります。)</p>							
使用予定テキスト							
特になし、必要に応じて資料を配布します。							
ゼミの進め方							
グループワーク、フィールドワーク、学外交流							
成績評価基準							
<p>ゼミナールでの報告内容、レポート、出席状況、ゼミ活動に意欲的に取り組んでいるか等により総合的に評価します。</p> <p>具体的には、(1) ゼミナールへの出席・授業態度 (60%)、(2) 報告内容とレポート (40%) に基づいて評価します。</p> <p>単に出席しているだけでは (1) の 60% になりません。また 3 分の 1 以上欠席した場合は、単位は出しません。風邪やアルバイトの場合でも欠席になります。</p>							
ゼミ選択上のアドバイス							
<p>受動的な学生は向いていません。</p> <p>実践力、コミュニケーション力を養いたいと思っている学生を歓迎します。</p>							
その他							
<p>土曜や日曜に学外へフィールドワークや外部交流をすることもあります。</p> <p>(先方あってのことなので未定です。)</p>							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習

科目コード	ナンバリング	単位数	学期	授業区分	科目区分	履修区分	配当学年
410037	X-32-B-2-410037	2	後期	【1年次生】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【1年次生】国際学部国際文化学科英語集中コース			
授業科目	担当教員			【2年次生以上】国際学部国際文化学科	×	×	×
				【2年次生以上】国際学部国際文化学科英語集中コース	×	×	×
				【1年次生】経営情報学部経営学科	専門	必修	2年
				【1年次生】経営情報学部情報システム学科	×	×	×
				【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科経営コース	×	×	×
応用ゼミナール2 (J)	山下 功			【3年次生以上】情報文化学部情報システム学科情報コース	×	×	×
ゼミテーマ・タイトル							
「Excel 活用術」 Microsoft Excel や Apache OpenOffice などの表計算ソフトは、様々な組織の業務を効率化するために広く利用されています。また、反復的かつ高速に計算ができるため、会計に関する処理にも適しています。この授業を履修することによって、様々な業務に役立つ Microsoft Excel の使い方を修得することができます。							
内容							
主に以下の項目を実施します。 Microsoft Excel の基本的な技法 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な集計表の作成 ・入力の工夫と簡略化 ・エラーチェックの方法 ・定型メッセージを表示する ・データベースとして使用する Microsoft Excel を使用した簡単な会計処理 <ul style="list-style-type: none"> ・小遣い帳と家計簿 ・金利計算 ・減価償却 ・商品有高帳 Microsoft Excel の業務への応用 <ul style="list-style-type: none"> ・テキストデータの活用 ・他人に配慮したフォームの作成 【毎回予習・復習に合わせて 180 分相当の課題】 【関連する学位授与方針】 健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること。 情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること。							
使用予定テキスト							
テキストを使用しません。							
ゼミの進め方							
必携パソコンを使って、Microsoft Excel を活用する方法を学習します。							
成績評価基準							
課題レポートや授業への取り組みなどに点数をつけて評価します。							
ゼミ選択上のアドバイス							
Microsoft Excel をもっと使えるようになりたい、という強い意志がある学生を求めています。 なお、この授業で必要な会計の知識を授業中に説明しますので、「簿記基礎」「財務会計論」「管理会計論」を履修していなくても問題ありません。							
その他							
【学習到達目標】 Microsoft Excel の基本的な技法を修得し、業務へ応用することができる。 Microsoft Excel で簡単な会計処理ができる。							

【授】：授業内容【前・後】：事前・事後学習